

社会福祉法人 上溝緑寿会

令和3年度事業計画

～目次～

法人全体の方針	…	2
ずっと我が家 上溝本町 [上溝 6-2-22]		
ショートステイ	…	6
デイサービス	…	8
ホームヘルプサービス	…	10
秋桜 [上溝 3172-1]		
グループホーム秋桜	…	12
デイサービス秋桜	…	14
星が丘 [星が丘 4-9-14(デイ)、3-6-21(包括)]		
星が丘デイサービスセンター	…	16
星が丘地域包括支援センター	…	18
上溝 [上溝 7-16-13]		
上溝地域包括支援センター	…	20
コスモスセンター [上溝 5423-5]		
居宅介護支援事業	…	22
コスモスホーム	…	24
コスモスハウス	…	26
栄養調理部門	…	28
総務事務部門	…	30

法人理念・ビジョン～私たちはめざしています～

人生は、いつでもあなたが主役です

～1日24時間、1年365日、住み慣れたところで、その人らしく生活することを

コスモスセンターはお手伝いします～

この目標を実現するために、私たちは次のメッセージをお送りします。

ご利用者様、介護するご家族様に

私たちは、「介護が必要な状態になっても、できるだけ自分の生活を自分で決め、豊かに安心して生活していく」ことを援助したいと考えています。

そして、そのことをすべての職員が目標にしています。

そのために、

ご利用者様が「大切にしていること、したいこと」「今までこだわってきたこと」をどうぞご遠慮なくお伝えください。

「苦しいこと、辛いこと、困っていること」をどうぞお聞かせください。

全てにはお応え出来ないかもしれませんが、一つひとつの「想い」を大切に、できるだけお応えできるよう、私たちは努力してまいります。

一緒に働く・働こうとする仲間に

介護、相談、医療など各分野で援助に関わる専門職として、「チームでご利用者様とご家族を支える、1+1が3にも4にもなる、この実感を仕事の醍醐味とする」ことを目指します。

そのために、

「とことんコミュニケーションできる」「伝えようとする、伝えている」

「聴こうとする、解ろうとする」「何でも腹をわって話せる」「先を見ようとする、見える」仲間を求めています。

そして、みんなで、目標の実現に向けて一步一步、歩んでいきたいと思えます。

地域に

地域の皆さまが気楽に集える、交流できる、そして「いろいろな何か」が得られる場を、地域の皆さまとともにつくっていくことを目指します。

そのために、

私たちは地域の皆さまといろいろな場面でどんどん関わっていきたくと思っています。地域の皆さまもどうぞお気軽にお立ち寄りください、お声かけください。「介護の相談がなければ…」ということはありません。

小さな交流の種を「地域の皆さまとともに」たくさん育てていきたいと思えます。

※上溝緑寿会ホームページ(<http://www.cosmos-c.or.jp/>)の「法人理念・ビジョン」に掲載中

法人全体の方針

1. はじめに～令和3年度事業計画立案にあたり～

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の広がりが法人運営に大きな影響を与えました。法人内での感染はありませんでしたが、デイサービス等の在宅サービスの稼働率の減少による収入減に加え、人員確保が進まず、収益が悪化しました。

この中で、「人材育成」については、「人材育成」において「認知症ケアの知識を再点検する」研修を、法人全体で取り組みました。

令和3年度も昨年度に引き続き、「人材確保・育成」と「収益確保」を事業計画の重点目標とします。**特にリーダー以上の事業の中核を担う人材が中心となり、「人材確保と育成」と「仕事の改革(工夫)」にセットで取り組む**ことを目指します。

昨年度に策定した令和5[2023]年4月時点の「将来に向けたビジョン」に掲げる「地域づくりに貢献する社会資源のひとつになる」ためには、「知識と技術に基づいた実践ができ、後継人材を不断に育て続けることができる」職員を増やすことが必要です。

さらに、令和3年度の介護保険改定も「根拠に基づいた専門職による介護サービスの提供」が評価される内容となっています。

このため、「人材確保と育成」と「仕事の改革(工夫)」は、派遣職員費の削減による収益性の向上と同時に仕事の質を高めることにつながります。

このことを職員全員が理解し、各事業に取り組んでまいります。

2. 地域との連携と法人運営

本年度も引き続き、社会福祉法の改正内容の施行に対応し、「評議員会・理事会の開催」、「さらなる事業運営の透明性の向上(経営内容の開示)」、「財務規律の強化」、「地域における公益的取組の実施」等に取り組んでまいります。

昨年度は実施できなかった「上溝本久・コスモスセンターふれあいまつり」などの地域交流事業や、「溝の朝市」、「星が丘フェスティバル」、「ぶらっと上溝での事業への協力」など、上溝及び星が丘地区社会福祉協議会をはじめとする地域のさまざまな団体との協働については、感染防止の工夫をしながら取り組んでまいります。

法人全体の事業計画(重点項目)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
法人理念「人生はいつでもあなたが主役です」を地域において支える専門職人材を育成し、「住み慣れたところで暮らし、大往生できる」地域づくりに貢献する社会資源のひとつとなっている。	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
中堅職員(プロ)を中心とした専門職が、各事業の責任者(事業管理者等)のリーダーシップで、「人材確保と育成」と「仕事の改革(工夫)」を実践し、収益を上げ、職員と事業をさらに成長させる「事業集団」となっている。	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
職員一人ひとりが目標をもって成長し、各事業のチームメンバーとして事業の目標達成に貢献することにより、収益を確保する仕組みが稼働している。	
4. 取り組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取り組み]
(1) 各セクションが「仕事の改革(工夫)」に自律的に取り組む	①仕事の見直し 各仕事の役割分担・責任、流れ(フロー)を再確認し、必要な仕事が、より効率的(手間なく)かつ着実に実施できるような見直しを実施する。
	②各事業単位の経営管理の取り組み 事業ごとの「収益把握」「計画進捗管理」「経営状況」を把握し、必要な見直しに速やかに対応できる取り組みを行う。
	③情報共有の仕組みづくり[昨年度に引き続き] 事業管理に取り組む職員が、法人全体の課題解決の取り組みを共有する意識づくりが必要である。情報共有のシステムづくり、研修(年 4 回)、会議の活用を行う。

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(2) 法人(職員)全体で人材確保に取り組む。</p>	<p>①各セクションが自セクションの魅力を発信する 各セクションの管理者・リーダーが、自分のセクションの魅力を具体的な言葉にして、法人内外に発信する。内外に発信する媒体を整備する。</p>
	<p>②直雇用の推進[昨年度に引き続き] 全職員が、リファラル採用(口コミや人的ネットワークによる人材確保)の制度等を利用し、直雇用や派遣職員の直雇用化に取り組む。</p>
	<p>③20代人材の採用 PR 強化[昨年度に引き続き] 養成校や実習生への働きかけに加え、SNSによるPRを人材募集専門サイトなどを利用し強化する(30歳未満の職員採用目標5名)。</p>
<p>(3) 人材育成に各セクションが目標を持って取り組む。</p> <p>※キャリアマップ I 職員の階層ごとに必要な具体的な行動を31項目にまとめたもの。</p> <p>※キャリアマップ II 職種ごとにプロの専門職として身につけるべきスキル(知識と技術)のチェックシート</p>	<p>①各セクションによる職員育成[昨年度に引き続き] 令和元年度に制定した「人材育成の基本方針」による新採用職員育成の取り組みのほか、キャリアマップ I・IIを活用した目標管理を事業管理者・リーダーが中心となって取り組む。</p>
	<p>②インターネットを利用したリモート研修の取組み リモート研修を活用し、職員が必要な研修を着実に受講するように計画的に実施する。</p>
	<p>③各セクションでの研修の効果測定の実施 必要な研修受講後、そのことが実践へ反映されているか効果を測定しフィードバックする。</p>

※評議員会・理事会の開催について(令和3年度)

本年度の評議員会・理事会の6月までの開催予定は以下のとおりです。開催通知については1ヶ月前までにご通知申し上げます。

令和3年5月29日(土) 理事会(事業報告・決算承認)

令和3年6月19日(土) 令和3年度定例評議員会(事業報告・決算承認)

同日

理事会(評議員会終了後)

ずっと我が家 上溝本町ショートステイ(短期入所生活介護)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
地域(家族・学生・地域住民)と我が家スタッフの交流が深まっている。地域の中で「我が家」がより身近な存在になっている。 (家族に向けて) 介護サロンの開催 / (地域住民・学生)公開講座の開催 など	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
年間実利用者350名の生活の一部となり、500世帯の暮らしを支えるパートナーとなっている。	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
いつでも だれでも 「泊まること」ができ、選ばれるショートステイであり続けること [提供する事業量の目標] ○年間稼働率 :100% ○新規利用者 :年間120名以上	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1)「いつでも」利用ができる取組み ⇒急な新規利用でも、即応できる対応力をつけていく	①[スタッフ]利用者の状態像を見て・聞いて確認できる力をつける ⇒着眼点・ポイントについて整理し、確認項目を整理する ⇒その人と関わる中で、ポイントをつかみ共有を図っていく
	②[システム]記録システムを活用していき情報を共有していく ⇒ケアのポイント・事故リスク等について、職種間で共有を図る ⇒朝のミーティング時に他職種協働で情報共有を図る
	③[その他]各業務内容の見直し ⇒現行の業務内容を見直していく ⇒見直した内容を元に、マニュアルを作成する⇒計画的に有給 5 日を消化できるようにしていく

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(2)「だれでも」利用できる取組み ⇒利用できる状態像の幅を広げていくためにケア力全体を上げていく	①[スタッフ](ケア力を高める【認知症・中重度者対応】) ⇒外部研修を通じて、学んだことを伝達研修として伝えていく ⇒ミニカンファレンスの開催を通じて実践の中から学んでいく
	②[システム]研修体系を組み、年間を通じて、学ぶ機会を作る ⇒全体の研修体系を作っていく ⇒個別スタッフ(常勤・契約・派遣)の目標に準じて、学ぶべき内容を検討し、実施していく
	③[その他]介護用品等の整備 ⇒様々な状態像に応えることができるよう、必要な物品(チルド式車椅子、エアベッド等)の整備を段階的に進める
(3)「選ばれる」サービスである取組み ⇒「安心」と「楽しみ」を軸に、利用者や家族から選ばれるサービス体系を作っていく	①[スタッフ]利用者の「楽しみ」を見出す力をつける ⇒利用者の「興味・関心」に着目した日中活動を提供していく ⇒その人の「できること」を実践し役割を見出していく
	②[システム] ⇒(家族・CM)利用終了後の報告書の内容について刷新 ⇒(本人)日中活動のバリエーションを増やしていく
	③[その他]外部への情報発信 ⇒サービスの利用状況・魅力について広報していく (ホームページ・チラシ等)

※記録システムについて

上溝緑寿会の記録システム「ブルーオーシャン(BO)システム」は、介護系の全セクションに導入されており、パソコン、タブレット、iPadを利用して、どのセクションでも同様の操作で記録することが可能です。各セクションとも介護に関しての情報をこのシステムを利用して共有し、活用することに取り組んでいます。

ずっと我が家 上溝本町デイサービス(通所介護)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
地域にとって必要と感じてもらえているデイサービスを目指す。利用者もそうでない人(地域住民・ボラ等)も分け隔てなく交流を持てている。利用者自身が地域との繋がりを感じて、(デイサービス利用時に)役割を実感できている	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
利用者を中心として、家族とは本人の心身の活性を通じ、地域や職員また他利用者とは役割を通じて、繋がりが実感できている。	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
利用者一人ひとりの自主性を広げていく(やる気を引き出す)	
[提供する事業量の目標]	
○年間利用平均人数 : 28名	
○中重度(要介護3~5)の月別延利用者数 : 全体の35%以上	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1)より個別ニーズ・希望に沿ったプログラムを提供していく Timed up & go テスト(TUG) 椅子から立ち上がり3メートル先の目印を折り返し、再び椅子に座るまでの時間を計測する	[介護計画の内容を刷新します] ①在宅生活を維持していく上での課題を分析し、目標と実施内容、その取組みについて、利用者にも見やすくわかりやすいものへ変更していく
	②生活行為(入浴・洗濯・掃除・炊事など)の機能訓練プログラムを増やしていく(小グループ単位)
	③取組みの成果について、効果測定を実施していく ADL・意欲調査(7・11・3月) 【タッチアンドゴー・5m走・握力計測】

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(2) 役割が持てる機会を作り、自己肯定感を高めていく	① 役割を持てる活動として提供できるプログラムを増やしていく (例) 保守・点検活動/炊事関連/花木の管理/広報活動など
	② 取組みの成果の見える化を図っていく → 簡易的な貯金箱を用意し、一日の活動に対して、コインを提供して、それに貯めていく
	③ 地域の方(保育園・幼稚園/地域住民/商店街等)と関わる機会を作っていく 【コロナ情勢により調整あり】
(3) 個々の利用者の状態(ADL・認知機能等)に合わせて、適切に介助・対応が取れるスキルを上げていく	① 介護技術の向上を図る ⇒ 歩行支援・移乗介助の基礎を再度確認する ⇒ スキルチェックシートを元に自己チェックを図る
	② 疾患別ケア・認知症対応の理解を進める ⇒ 月1回の定例会議で「各テーマ毎」に全体で学ぶ 機会を設ける
	③ [トランス(移動介助)]基本動作について学び、実践する(リハビリ的観点を含めて) ⇒ 基本動作について学ぶ(デイ会議等) ⇒ 日常的に実践する(互いに確認し合う) ⇒ 理解度についてチェックする

※我が家デイサービスにおけるリハビリの視点

トイレや着替え、入浴、食事等の日常生活動作そのものをリハビリとしてとらえ、機能訓練プログラムとして位置づけ、自立した生活を支援するという視点で考えます。ずっと我が家デイサービスでは、これらの組み合わせを「役割」として意欲的に取り組む仕組みにすることを目指しています。

ずっと我が家 上溝本町ホームヘルプサービス(訪問介護)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
その人の暮らしをその人らしく生活を送ることができ、「安心」・「希望」が実現できるチームとなっている。	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
身体状況や生活状態を把握し、その改善により感動ある介護ができるようなチームになっている。	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
人材を確保・育成し、現在の事業を安定・成長させる。	
[提供する事業量の目標]	
○サービス提供責任者 1ヶ月の活動時間合計 100 時間	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1)ご利用者の全体像を把握し、直ぐケアに生かし対応できる。 ※アセスメント 心身の状態、生活環境、個人の考えや思いなどを多面的な視点で把握すること。このデータを専門職が共有することにより適切な支援の組み立てにつながる。	①必要な援助内容とアセスメント・モニタリングを通じて検証し、必要に応じてケアマネにプラン見直しの提案をしていく。
	②障害受容のプロセスに応じて接することができるようにコミュニケーション技術研修を行う。
	③看取りに強い事業所へと成長するために看取りケアに関する検討・勉強会を行う。

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(2) 身体介護技術の維持と認知症ケアの理解を深め、ケアが向上できる。</p>	<p>①身体介護技術・認知症ケアに(理解)に対応できるように年4回研修を行う。</p>
	<p>②「利用者を知る」情報を共有し、その人が生活するうえでどのようなリスクがあるかを検討する。(事故・クレーム防止)年2回</p>
	<p>③メンタルケアが日常的に可能になるように年2回の研修と相談できる環境を整えていく。</p>
<p>(3) 世代交代を含めた人材確保と育成。</p>	<p>①業務内容を整理し、サービス利用を増やし毎月の全体のサービス量に占める身体介助・身体生活援助の割合を 70%にしていく。</p>
	<p>②働きやすい職場として「訪問介護の手引き」を作成し、訪問介護の魅力を発信する。</p>
	<p>③「た」「の」「し」「く」を職員のモチベーションにして憧れを持てるような事業所を目指す。</p>

※「た」「の」「し」「く」

「対話しよう」「伸びよう」「社会人しよう」「工夫しよう」の頭文字です。上溝緑寿会では、職員ひとりひとりがこの4つの行動を意識して、チームメンバーがお互いのモチベーションを上げて、「仕事」を協力して行っていくことを目指しています。

グループホーム秋桜(認知症対応型共同生活介護)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
住み慣れたところで、大往生できるグループホームづくり	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
認知症の方や、介護されているご家族にとってGH秋桜は、安心できる暮らしの場であること。	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
職種に限らず全職員がグループホーム秋桜の理念を理解し、実践していること	
[提供する事業量の目標]	
○年間を通じて18名を維持する。	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1)感染症予防対策と利用者に活躍できる場がある暮らしの両立	①良く食べる・排泄する・歩く・寝ることを基本としたケアと環境作り(歩行介助が必要な方への歩行 UP の重点意識)
	②毎日、ご利用者主体となる生活活動を行う。出来ること、やりたいことに視点を当てた日々の継続性
	③毎月の行事、外出を基本とした社会参加と社会とのつながりのある企画を提供する

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(2) 様々な行動・心理症状をスタッフが自分ごととして考え、創意工夫できるチームケアの向上とフォローアップ体制の強化</p>	<p>①利用者の心理行動症状を利用者のSOSと捉え、原因を探り、否定せず寄り添うケアの確立(ひもときシートの活用やケースカンファレンスの実施)</p>
	<p>②利用者の想いを知る⇒症状の要因追及とチーム内のケア方法の共有と実践</p>
	<p>③不安の早期発見(観察力の向上)と日々に利用者、スタッフ共に笑いや楽しみのある会話と行動の実践(対応力の向上、利用者の興味や関心の発見力の向上)。</p>
<p>(3) 秋桜理念を实践(DO する)職員集団の確立</p> <p>※「いいね！」</p> <p>良いと思った行動(ケア)を「気兼ねなく」「気軽に」「認め合う」ことをめざすのが「いいね！」です。リーダーが率先し、チームメンバーもお互いに認め合うことが、現場のチーム力の向上につながります。</p>	<p>①秋桜理念、秋桜職員として必要な知識技術を習得していく(行動目標45、OJT、研修等)</p>
	<p>②職種の違いやスタッフが変わっても変わらない秋桜スタイルの確立と実践(仕事の中身やシステムの構築、人材育成、環境整備)</p>
	<p>③『いいね！』を増やし、スタッフのモチベーションと現場の主体性、チーム力の向上</p>

※ひもときシート

認知症ケアのためのツールの一つ。認知症の方を援助する際に援助者の思いこみや試行錯誤で迷路に迷い込んでいる状況から脱するために、援助者中心になりがちな思考を本人中心の思考(すなわち本人の気持ちにそった対応)に転換し、課題解決に導くために、段階的に検討することを補助する。

デイサービス秋桜(認知症対応型通所介護)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
認知症の方や, 介護されている方にとって安心して利用できるデイサービス秋桜。	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
明日も明後日も毎日行きたくなるデイサービス	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
秋桜理念の実践でデイサービス秋桜でこそできる認知症ケアの確立	
[提供する事業量の目標]	
○10名/1日	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1)感染症予防対策と利用者が活躍できる居場所作りの両立	①出来ること、やりたいことシートの活用で、できることに視点を当てたケアの確立
	②歩きたい気持ちを大切にし、歩行能力が維持できる環境整備とケアの確立(歩行回数、量 UP)
	③感染症予防対策の継続と日中活動量 UP の為の工夫と実践(コロナ禍以前の外出企画や行事に戻せる努力)

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(2)ご利用者の安心できる居場所作り、ご家屋の不安や苦勞の軽減	①利用者の心理行動症状を利用者のSOSと捉え、原因を探り、否定せず寄り添うケアの確立(ひもときシートの活用やケアノートの活用)
	②利用者の想いを知り、ご家族や他支援者と繋がりチームケアの実践
	③利用者の状態低下時や心理行動症状出現時にもデイサービス秋桜が拠り所になるケアの工夫と実践
(3)秋桜理念を实践(DO する)職員集団の確立	①秋桜理念、秋桜職員として必要な知識技術を習得していく(行動目標45、OJT、研修等)
	②職種の違いや働くスタッフが関わっても変わらない秋桜スタイルの確立と実践(システム構築、人材育成、環境整備)
	③『いいね!』を増やし、スタッフのモチベーションと現場の主体性、チーム力の向上

※行動目標 45

上溝緑寿会全職員が目標とすべき具体的な行動について 45 項目として 2017 年に取りまとめたもの。2019 年(令和元年度)には、「行動目標 45」をもとに「あしたのひとづくりプロジェクト」により、階層別の行動目標を整理した「キャリアマップ I」が制定された。

星が丘デイサービスセンター(通所介護)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
中重度のご利用者が「笑顔になる」、「行く気になる」、「目的を持てる」、「自由になれる」、「気持ち良くなる」デイサービスとなる。	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
認知症の方が戸惑うことなく安心して過ごせるデイサービスとなっている。	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
認知症の方が気力、体力共に健康でデイサービスが利用できる。 [提供する事業量の目標] ○年間で1日平均 22.5 名(稼働率 90%) ○中重度(要介護3~5)の実利用者割合 :全体の40%以上	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1) 認知症の方が笑顔で取り組める活動を提供する。	①ライフストーリーの作成を行い各利用者の生活背景を読み取り職員全体で共有する(ご家族への聞き取りも実施 対象 6 名/年)
	②ライフストーリーをもとに利用者の意向や認知症状にあった少人数プログラムを検討を行う。
	③感染対策に配慮した機能訓練外出など施設外での活動の場を提供する。

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(2) 多数の方の状態像にあった対応できる技術を習得する。</p>	<p>①統一ケア</p> <p>個々の利用者状態変化の記録をわかりやすく記載し、ケアの根拠となるようにする。</p>
	<p>②認知症ケア</p> <p>認知症の理解を職員へ周知するため計画的に勉強会を実施する。(例:デイ会議内)</p>
	<p>③新規利用者獲得</p> <p>各居宅支援事業所への空き状況の配信を行う。</p> <p>生活活動の取り組み状況など広報誌の作成を行う。</p>
	<p>④状態把握</p> <p>各種指標を用いた ADL 評価を行い、数値化を行い見える形にする。(例:バーセルインデックスなど)</p>
<p>(3) 地域から孤立することなく過ごすことができる</p>	<p>①地域ケア会議等地域への集まりへの参加</p>
	<p>②行事や催しものなど、地域の方が参加できるようなイベントの検討</p>

※バーセルインデックス

バーセルインデックスは、介護保険分野のサービスの利用によって、利用者の介護度が軽減されているかを評価する指標として用いられています。

食事、移乗(車椅子・ベット間)、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の 10 つの生活動作を 100 点満点で採点するものです。

星が丘高齢者支援センター(地域包括支援センター)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
<p>今まで大切にしてきた、新規即日対応や一つひとつの相談に丁寧に対応していく。 地域住民、地域、事業所のニーズや期待に応えることで信頼してもらえる事業所を目指す</p>	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
<p>職員それぞれの専門性や強みを活かし、チームの力を最大限に発揮して業務ができる</p>	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
<p>地域づくりや個別支援において、地域の高齢者が住み慣れた地域で生活を続けていくため必要な具体策を考え実行できるようになる</p> <p>[提供する事業量の目標]</p> <p>○相模原市委託契約の業務仕様書に準拠</p>	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(1)多様なニーズに応じていけるように個別支援の強化を図る</p> <p>※アセスメント 心身の状態、生活環境、個人の考えや想いなどを多面的な視点で把握すること。このデータを専門職が共有することにより適切な支援の組み立てにつながる。</p>	<p>①経験や学びの共有 職員の経験や学んだことをシートに記入し、全員で共有できるようにする</p>
	<p>②アセスメントの強化 個人の強み(ストレングス)や弱みを把握し、支援に活かしていけるようになる</p>
	<p>③アセスメントの強化 その人の地域での暮らし・生活史を理解し、支援に活かしていけるようになる</p>

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(2) 地域の理解を図る(地域で生活すること、地域を構成する組織、団体等の理解、キーマンの共有、星が丘地区の歴史や特徴の理解等)</p>	<p>①地域の団体の理解、顔の見える関係の構築</p> <p>老人会やサロン、シニアサポート活動やいきいき百歳体操、いこいの広場や民児協定例会など、団体や組織の会議や定例会、集い場などに職員全員が訪問または参加する</p>
	<p>②地区アセスの充実(更新)</p> <p>昨年度作成した地区アセスを更新する。必要な情報を意識して業務を行うことができる</p>
	<p>③生活支援コーディネーターとの連携</p> <p>生活支援コーディネーターと地域の課題を検討し、課題の抽出を行う</p>
<p>(3) 上記二つの項目を達成するためにセンター職員としての資質の向上を図る</p>	<p>①上溝高齢者支援センターとの連携</p> <p>委託事業の取組等の共有や職種間の連携を図る</p>
	<p>②チームプレイの理解や強化</p> <p>担当以外のケースへの訪問による共有や専門職の強み、職員の強みや弱みの理解し共有する)</p>
	<p>③ファシリテーターやスーパーバイズの理解</p> <p>事例検討や会議・ミーティングの司会やファシリテーターを職員全員が行う。学ぶ機会を作る</p>

※高齢者支援センター(地域包括支援センター)は、相模原市の委託事業として、委託契約で、事業目標や評価基準等が定められています。法人のセクションとしての事業計画は、それぞれのセンターの状況に置ける人材育成やチーム作りなど「組織づくり」を中心とした計画となっています。

上溝高齢者支援センター(地域包括支援センター)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
<p>地域住民全体で高齢者を支え合う仕組みづくりができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症のある方及びその家族 ・孤独死を減じる ・住民による介護予防の実施 	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
職員が定着し、各職員が専門性を発揮し取り組む体制ができている。	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
<p>相談援助職人材を確保し育成する体制を作る。</p> <p>みんなで考え、みんなで学び、みんなで成長できる環境を作る。</p> <p>各職員のもっている人的ネットワークなどの資源を継承する取組みを行う。</p> <p>[提供する事業量の目標]</p> <p>○相模原市委託契約の業務仕様書に準拠</p>	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1) 人材の育成(同じ気持ち、同じ方向を向いて仕事ができるようになる)	<p>①資質の向上を図る。コミュニケーションの機会を持つ</p> <p style="padding-left: 20px;">勉強会又は事例検討会、カンファレンスなど月 2 回定例会開催を目指す</p>
	<p>②業務チェックシートを活用し事業や業務の理解を深める</p> <p style="padding-left: 20px;">業務チェックシートにて確認しながら必要な助言や勉強会を実施。職員全員の資質の向上を図る</p>
	<p>③センター業務を理解する</p> <p style="padding-left: 20px;">業務マニュアルや各事業の手引き等の読み合わせを行い事業に対する共通理解を図る</p>

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(2) 地域の理解(地域を構成する団体や組織の考え方や特徴などを理解する)	①地域の団体や組織の理解や顔の見える関係の構築 老人会、サロン、シニアサポート活動、ボランティア団体等に職員全員が積極的に訪問する
	②地域に関する情報の整理(団体や組織の情報、人的ネットワークを整理し全職員で共有する)

※高齢者支援センター(地域包括支援センター)は、相模原市の委託事業として、委託契約で、事業目標や評価基準等が定められています。法人のセクションとしての事業計画は、それぞれのセンターの状況に置ける人材育成やチーム作りなど「組織づくり」を中心とした計画となっています。

居宅介護支援事業

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
総合福祉施設の利点を有効に活用しながら、専門職的知識を生かして、ご本人・ご家族と共に悩み、共に考え、歩んでいく。	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
ご本人・ご家族のニーズや期待に応えられる、信頼される事業所を目指していく。	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
一つ一つの相談に丁寧に対応していく。 [提供する事業量の目標] ○介護支援専門員 1 人あたりの担当件数 37 件/月	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1)収益を上げる。	①新規相談は積極的に受ける。特に緊急での依頼に対しては、早急に返事をする。
	②取得できる加算は、必ず取る。(入退院加算など)

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(2) 人材の確保と育成	<p>①法人内の他の部門と連携して、人材確保・育成に取り組む。</p> <p>法人理念の実現に向けて、相談援助部門としての役割を意識し、実践と教育を行う。</p>
	<p>②各職員が目的を持って研修に参加し、報告の場を持ち、職員全体で内容を深め共有する。</p>
	<p>③定例会議や必要時に、ケース検討会議を開催し、利用者への理解を深める。</p>

コスモスホーム(特別養護老人ホーム・併設短期入所)

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
<p>・ご利用者が自分らしく毎日を過ごし、人生の最後まで愛着を感じて暮らせる家。またご家族や地域に住む方々の安心も支えられる拠点となる。</p>	
2. 令和 4 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
<p>・ご利用者が主役の生活を支えるため、理念実践と役割・責任に応じた連携が安定し、施設環境が安全で心地良い暮らしの場となっている状態。</p>	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
<p>・ご利用者が主役の生活を支えるため、職員・業務体制の効率化と職員一人ひとり及びチームワークのレベルアップを図る。</p>	
[提供する事業量の目標]	
<p>○(全体) 平均利用人員数 70人 平均稼働率 100%</p>	
<p>○(特養) 平均入所人員数 61.5人</p>	
<p>○(ショート) 平均利用人員数 8.5人 平均稼働率 106.2%</p>	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体的取組み]
<p>(1)職員 1 人 1 人のクオリティ、キャリアを高める。</p>	<p>①各職員がキャリアマップⅡ「専門性」で自身の点検を重ね、知識や技術のレベルアップに取り組む(定期・随時面接等で上司と課題、取り組みを話し合う)。</p>
	<p>②各職員が関心のあるテーマや職層に応じた外部研修(オンライン研修も経験する)に参加する。参加した職員は職場で情報共有の機会を設ける。</p>
	<p>③職員個々の日頃の疑問や希望に応じて、小規模勉強会を随時、必要に合わせて開催する。(看取りや感染症、認知症など関心の高いテーマは年間計画で開催する。)</p>

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(2) 目標や問題に連携して対応できるチームを作る。</p>	<p>①各職員がキャリアマップ I「組織性」で自身の点検を重ね、チームの一員として、役割や責任を果たす。(定期・随時面接等で上司と課題、取組みを話し合う。)</p>
	<p>②「報・連・相」「配慮し合う双方通行の対話」などコミュニケーションや接遇力を高め、的確な意思の疎通や情報の共有に取り組む。</p>
	<p>③職種や職層、各担当など業務の役割と責任を各々の職員が明確に認識する。担当業務への責任を持った主体的な取組みと職員間の連携強化を図る。</p>
<p>(3) 暮らしやすく、働きやすいコスモスホーム作り。</p>	<p>①年間行事及び日常的に楽しめるレク企画を実施する。特に「食」に関する企画も充実させる。フロアの装飾、整備など住み心地の良い環境作りに取り組む。</p>
	<p>②現状の業務内容や職員体制について、見直しを行う。業務やコスト面の効率化とシフトなど適正な勤務体制を検討し、安定的な運営体制を構築する。</p>
	<p>③既存の介護・生活用品の点検・整備体制を作る。また新しい生活用品や介護ロボットの情報を収集し、ご利用者と職員が安心して暮らし、働ける環境を整える。</p>

コスモスハウス(経費老人ホーム[ケアハウス])

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
コスモスハウスに入居できてよかったと家族も本人も思える場所(自宅)になっている。	
2. 令和 3 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
法人の居宅サービスを利用しながら、住み慣れたハウスでできるだけ長く生活できるように法人全体で安心を提供していく	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
日々の生活を不安なく送れるよう、職員それぞれが入居者の状態を理解し出来ることをサポートする	
[提供する事業量の目標]	
○入居者32名満室を目指す	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1)入居者の発するサインを見逃さず、職員それぞれが問題を解決する力をつける	①日々の記録や連絡ノートを利用し入居者の変化や心の動きを把握、職員間で共有する。疑問は残さず話し合う。
	②観察する力や伝える力を養うため担当で委員会の講義などを行う。必要な研修や参加したい勉強会などがあれば機会を設ける。
	③良いところはお互い認めあう。

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(2) 家族や関係機関との連携を密にする</p>	<p>① ハウスだよりをご家族や関係機関に送付することで、ハウスでの様子を伝える(2ヶ月に1回発行)。</p>
	<p>② コロナ禍での面会の機会の減少を補うために、ケアマネやご家族に入居者の変化や現在の状態を必要に応じ知らせ共有する。</p>
<p>(2) 入居者それぞれが主役になれる機会を作る</p>	<p>① 入居者が話しやすい雰囲気を作り、考えや望みを幅広く知る(聴く)努力を惜しまない。</p>
	<p>② レクリエーションの幅を増やし、どの場面で主役になれるかを計画・実行する。</p>

栄養調理部門

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
「地域No.1 は上溝緑寿会の食事」を目指す	
2. 令和 3 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
ご利用者やご家族、コスモスで働く職員も 満足する食事の提供	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
緑寿会の栄養・調理部門の人材育成と業務の標準化 ご利用者ファーストの食事をめざす	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(1)ご利用者の状態に合わせた安全・安心で喜ばれる食事の提供	①施設ケアプランをもとに栄養ケアマネジメントを実施し、栄養状態・健康状態・食環境が良好に維持されるように支援する。
	②他職種との情報の共有・連絡・厨房内への伝達を円滑に行い、利用者の状態に合わせた適切な食事の提供を行う。行う。
	③味覚・視覚・サービス・栄養面などさまざまな視点から、ご利用者に喜ばれる食事を提供する。

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(2) 人材育成及び作業効率の向上を行い、ご利用者へ還元できる仕組みを作る</p>	<p>①職員の育成体制を確立し、個々のスキルアップを図る。</p>
	<p>②職員による味のバラつきをなくし、且つ、サービスの向上に努める。</p>
	<p>③ミスをなくすための対策を検討し、安心、安全、安定した食事提供を維持する。</p>
<p>(3) 収益アップへ向けて取り組む</p>	<p>①新しい取引先と価格の比較を行い、質の良い食材を安価で仕入れる。</p>
	<p>②無駄を省く。食品ロス軽減へ向けて取り組む。</p>
	<p>③加算の取得を継続する。 (経口維持加算(Ⅰ)(Ⅱ)・療養食加算)</p>

総務部門

1. 将来に向けたビジョン(令和 5[2023]年 4 月)	
<p>人員・収支ともに安定した運営を行い、平常時も災害時も地域の福祉拠点となる体制を作る。</p>	
2. 令和 3 年 3 月のビジョン(到達イメージ)	
<p>ご利用者様や地域の方に信頼される施設運営を行うために、いつでも各セクションが必要とするバックアップが出来る体制を作る</p> <p>大規模災害時には地域の災害福祉拠点として機能する体制を作る</p>	
3. 重点目標(大項目) [課題を解決しビジョンを実現するために]	
<ul style="list-style-type: none"> ・正確な事務処理と情報共有を行う ・施設および設備の老朽化対策を計画的に進める ・会計処理の効率化を図る 	
4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
<p>(1) 事務体制の見直しと人材確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務室業務の見直し ・規程類の整備 ・人員確保に向けた取組み 	<p>①事務室職員の体制(人員補充)および業務内容見直し</p>
	<p>②有給休暇取得および残業時間の管理、定年延長の見直しを実施する</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・採用に向けた取組み(地方就職者の支援を検討) ・就業体系および給与体系の見直しを検討

4. 取組み項目(中項目)	5. 行動内容(小項目)[具体の取組み]
(2) 設備の計画的な改修・更新と災害・防犯対策、感染症対策の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設および設備の更新 ・災害対策強化 ・防犯対策強化 ・感染症対策強化 	①設備等の計画的な改修・更新 <ul style="list-style-type: none"> ・自動火災報知設備の改修工事(コスモセンター) ・各拠点の設備等更新内容を検討
	②災害及び防犯対策強化 <ul style="list-style-type: none"> ・災害マニュアルの整備と備蓄品の補充 ・防犯マニュアルの整備と防犯訓練の実施
	③感染症対策強化 <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策マニュアルの整備と備蓄品の補充 ・感染症対策に向けた環境整備の実施
(3) 管理会計体制の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ・会計処理業務の見直し ・収支状況の速やかな情報提供 	①会計処理手順の効率化を目指して外部委託業者(辻・本郷)と検討調整
	②セクション毎の収支状況をより正確に情報提供する